

## 植物と人々の博物館メールマガジン

第 120 号 2025 年 3 月 6 日発行

~~~~~



野川沿いでも早生サクラは咲き始め、マンサクも例年の通り早いです。青い空を旅客機や戦闘機が飛んでいきます。調布飛行場からは伊豆諸島行き双発機が上空を往来しています。プロペラカフェには時々行きます。

三鷹市大沢の古民家と水車農家に行ってきました。散歩でよく通るのですが、何となく敷居が高く、お雛様の展示があるとのことで、入館してみました。また、檜原村のさとやま学校・東京も講義依頼で訪問しました。藤倉小学校を改修して、畑も復活し、伝統的な暮らしの継承をするようです。

植物と人々の博物館は社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開したいです。ご利用くださり、整理もご一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、これらの資料は公共の場所を確保して、広く公開し、ご活用願いたいです。借用中の倉庫はすでに雨もりしています。電気・水道などは有りません。

### 1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日：3月から月何回か開館します。さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整してご案内します。担当 木俣 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

#### 主な作業：

- ①書籍 8000 冊・環境教育などの資料・書籍の整理、インドの関連書籍も多い。
- ②日本、インド、タイなどの民具の整理
- ③展示の企画：たとえば、タイやインドの民具、自然文化誌研究会（学大探検部）50 年記念記録
- ④インド亜大陸、中央アジアの植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、
- ⑤その他

#### ○報告

- ①50 周年記念企画を話し合っています。
- ②木俣文庫の日本語書籍は大方、3 月中に寄贈します。訪問国で集めた外国語の書籍や文献も『Essentials of Ethnobotany on Millets』を書き終えたら、1～2 年の内に寄贈します。

## ○報告

### ①講座『里山再生ボランティア入門』

日時：2025年2月9日 8名の参加でした。4月になったら小菅を訪問したいそうです。

木俣担当 自然文化誌研究会/植物と人々の博物館

「1970年代の檜原村の雑穀調査から～人間と穀物の共生、文化的進化を学ぶ」

場所：桧原村藤倉、NPO法人さとやま学校・東京

<https://satoyama-gakkou.org/field/>

### ② 新渡戸文化高校2年生探求学習

日時：2025年2月19日水曜日 14:00～15:30、先生と雑穀プロジェクトの高校生3名の参加でした。

話題：探求学習で、雑穀に関するインタビューを受ける。

### ③次代の食と農をつくる会/講座 zoom

日時：2025年3月5日 19:00～20:30 18名の参加でした。

話題：雑穀を守っていく、という世界～日本の雑穀の歴史、調理方法、魅力など

## ○予定

### 1) 講義などの依頼

4月になったら、さとやま学校、泉龍寺座禅会、ほかが小菅を訪問したいそうです。大沢の水車保存の会も西原の水車を見たいそうです。

2) 民族植物学ノオト第18号は2025年3月末に発行する予定です。すべての記事pdfは植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。意外に相当数の方々が読んでくださっています。

<http://www.ppmusee.org/goods.html>

### 3) 電子書籍：

編集子の自選集 I、II、III、および IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は、順次、ネット上で公開してきました。誤字、脱字、誤変換などは、年度内にもう一度、確認、修正します。穀物に関する新たな栽培起原と伝播仮説および未来への提案をします。これで、小生の研究記録はほとんど公開しました。自選集全6巻のまとめとして、日英文要約版（第V巻“Essentials of Ethnobotany on Millets ~Their Origin and Dispersal around Indian Subcontinent”）を書き始めています。あとしばらく頑張ります。同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を進めています。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』や句集に順次新作を追加しています。

4) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インター

ネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp)で毎年1回7月20日頃に収録されています  
(すでに5回登録済)。すべての記事は無料で公開しています。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまでが集成されており、ここに保存されている記事は記録として残りますので、とてもありがたいです。

5) **森とむらの図書室**への寄贈など 現在所蔵する書籍や文献を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。国内外の調査時におけるフィールド・ノット、スライド35mmなども、こちらに置きます。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。

<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

## 6) 雑穀栽培

簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀 ～とりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](#)  
[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](#)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](#)

詳細は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学』を検索してお読みください。

## 7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている1円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。将来に向けて、植物と人々の博物館へのご寄附あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願いします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄附をいただくとありがたいです。今のところ、上野原市西原のびりゅう館に森とむらの会文庫を一括貸し出しています。他に数名の方に、まとめて関係資料を貸し出しています。

これまでに、多くの方にご寄附を頂き、感謝しています。

郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

## 2. 自然文化誌研究会 (学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部)

### ○報告

- 1) 総会は、2月17日19:00～に開催しました。
- 2) 創立50周年記念行事の企画会議を行っています。

○予定の詳細は下記ホーム・ページをご覧ください。

1) 50周年記念の前企画の ZOOM 座談会の一次案内案

内容：

(1) 10：30～12：30

**学術探検と学習・教育をつなぐ**

挨拶・司会；中込卓男（代表理事）

話題提供；

①木俣美樹男（専任研究員、博物館担当運営委員、東京学芸大学名誉教授）

学術探検の系譜～植物の栽培化過程と伝播＜フィールド・ワークの成果から＞

<https://www.millettimplic.net/university/inch50aniv/lecjunefin.pdf>

環境学習における心の構造と機能の文化的進化＜冒険学校の成果から＞

<https://www.millettimplic.net/university/inch50aniv/inchmindfin.pdf>

②日比野真士（毎日新聞社）

東京学芸大学探検部員の海外探検と探検セミナー

\*昼食休憩、自由談話 12：30～13：00

(2) 13：00～14：30

**エコミュージアム日本村、雑穀街道普及会などの民族植物学的伝統知の継承・保全活動**

司会；井村礼恵（博物館担当運営委員、文教大学准教授）

話題提供；

①宮本透（博物館担当運営委員、宮本茶園）

雑穀栽培講習会と雑穀街道の普及

②黒澤友彦（事務局長、木下養魚場）

エコミュージアム日本村の実践活動

③井村礼恵（博物館担当運営委員、文教大学准教授）

東京学芸大学との社会連携協定による地域振興活動

(3) 14：30～16：00

**冒険学校、環境学習セミナーなどの実践活動による心の形成**

司会；西村俊（博物館担当理事、北陸先端大学院大学准教授）

話題提供；

①中込卓男（代表理事）

西原の民俗調査から冒険学校へ

②中込貴芳（副代表理事）

タイ・日本自然クラブの合同キャンプ

③宮坂朋彦（冒険学校担当運営委員、東京学芸大学連合大学院生）

冒険学校と現代教育の思潮～教育哲学の視点から

(4) 16：00～16：10 挨拶・謝辞

小川泰彦（理事）

2) 自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は来 2025 年に創立 50 周年を迎え

ます。今までの活動履歴を示す資料集をまとめています。とりあえず、下記で資料の一部を公開しています。ちなみに大学探検部は全国に 20 ほどはあります。

<https://www.millettimplic.net/archives/historyinch2025.html>

来年は創立 50 周年ですから、企画ワーキンググループで話し合いを重ねています。『50 年史』をまとめるとか、50 年間に関わった人々と思いを語り合う会とか、企画が進んでいます。環境学習セミナー、公開講座、冒険学校や農学校、関係市民も皆さん、何万人もが場と時を共有した東京学芸大学彩色園で、1 泊 2 日を過ごします。学大環境教育研究センターの了承も得られています。

詳細はまだ未定ですが、おおよその仮案です。

日時：2025 年 10 月 4 日（土）～5 日（日）、1 泊 2 日

話題：未定

場所：東京学芸大学彩色園など。仮承認を得ています。

内容：写真展、談話会、50 年記念誌の発行などを検討中。

### 3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

~~~~~

### 植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任研究員、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ベトナム）、大澤由実（神奈川）ほか

公式 HP：自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.millettimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会（山梨県小菅村）：代表 亀井雄次（山梨小菅村）

自然文化誌研究会：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村）

伝統知顧問：守屋秋子（小菅村）、岡部良雄（丹波山村）



編集子独り言：

写真：

桧原村藤倉、NPO 法人さとやま学校・東京



三鷹市大沢の水車、古民家





この立ち姿!!  
まるで弥勒様のように 😊

竹富島の栗畑の主 ✨ 幸本宏助さん。  
木俣美樹男先生が1975年頃に収集していた在来種の栗が、  
研究者の玉木陸斗さんよりもたらされ、  
今年、豊作に 🌱 🌱 🌱

幸本さんもおっしゃってましたが、  
栗が3本に分けつしているの、  
はじめて見ました!!  
スゴイ!!

こちら半世紀ぶりの大復活です。  
ありがとうございます ⚡



**復活した沖縄のキビ・アワ (2024)**

木俣先生が玉木陸斗さんへお分けした波照間島在来種のもちきびが  
昨年、波照間島の西里正善さんの畑で見事豊作となりました。  
今年は無肥料でこの在来もちきびを栽培するそうです。

